

ブドウ「巨峰」ウイルス無毒樹の芽かきと枝抜きによる安定生産と果粒肥大の向上

〔要約〕 ブドウ「巨峰」ウイルス無毒樹に対する 萌芽期の芽かきの連年処理は樹体生育や果粒形質を向上させる。6月の枝抜きの連年処理は樹体生育や果粒形質を低下させる。

長崎県果樹試験場・落葉果樹科

専門

栽培

対象

果樹類

分類

普及

資料名：平成10年度 長崎県果樹試験場業務報告

〔背景・ねらい〕

ブドウ「巨峰」ウイルス無毒樹は保毒樹に比べ、樹勢が旺盛で果粒肥大期も新しょう伸長が著しいことから果粒への養分の転流が少なく、果粒肥大が阻害されている。そこで、新しょう葉への養分転流の無駄を少なくするために、萌芽期の芽かきと6月及び9月の枝抜きなどの処理による果粒肥大法、連年処理による樹体への影響を検討する。

〔成果の内容・特徴〕

- ①萌芽期の芽かきは6月、9月枝抜き区や無処理区に比べ萌芽率は高く、新しょう長は長く、果粒は大きく、果皮色は優れ、糖度は高く、酸含量は低い。
- ②6月の枝抜き処理は無処理に比べ、有核果粒率は高いが萌芽率は低く、果粒は小さく、果皮色は劣り、糖度は低く、酸含量は高い。
- ③9月の枝抜き処理は無処理区に比べ萌芽率、有核果率は高いが新しょう長、1粒重、果皮色、糖度は同程度である。
- ④枝抜きは強い枝を抜いたため、弱い樹相となったことが、果粒の小玉化、果皮色の低下を招いた一因である。
- ⑤以上の結果から6月の枝抜きを連年行くと果実形質が低下することから、ウイルス無毒樹の樹体管理は芽かき主体で9月枝抜きを補完的に行うのがよい。

〔成果の活用面・留意点〕

- ①ブドウ「巨峰」ウイルス無毒樹で活用できる。

[具体的データ]

表1 芽かき及び新しょうの枝抜きをした場合の樹体及び果粒形質 (1996年)

処 理			1粒重	果皮色 ²	糖度	酸含量
方法	時期	回数	(g)			(g/100mℓ)
枝抜き	6月	1	11.8	8.2	18.5	0.45
枝抜き	9月	0				
芽かき	4月	1	13.8	9.8	19.0	0.42
無処理			12.8	9.3	18.6	0.46

² カラーチャート指数

表2 芽かき及び新しょうの枝抜きをした場合の樹体及び果粒形質 (1997年)

処 理			萌芽率	有核果率	新しょう長			1粒重	果皮色 ²	糖度	酸含量
方法	時期	回数	(%)	(%)	開花前①	収穫直後②	②-①	(g)			(g/100mℓ)
枝抜き	6月	2	90.6	28.6	38.2	46.0	7.8	10.3	9.4	18.9	0.29
枝抜き	9月	1	89.3	27.6	48.6	71.2	22.6	11.8	9.6	19.2	0.30
芽かき	4月	2	90.1	28.2	54.6	92.3	37.7	12.4	9.4	19.3	0.30
無処理			83.0	24.8	44.2	63.0	18.8	11.0	9.3	19.1	0.29

² カラーチャート指数

表3 芽かき及び枝抜きを連年処理した場合の樹体及び果粒形質 (1998)

処 理			萌芽率	有核果率	新しょう長			1粒重	果皮色 ²	糖度	酸含量
方法	時期	回数	(%)	(%)	開花前①	収穫直後②	②-①	(g)			(g/100mℓ)
枝抜き	6月 ³	3	60.0	29.0	20.3	55.0	24.7	11.3	8.2	18.0	0.45
枝抜き	9月 ⁴	2	84.3	28.9	37.5	68.3	30.8	11.8	9.2	18.5	0.31
芽かき	4月 ⁵	3	90.6	27.1	59.0	107.3	48.3	13.1	9.4	19.3	0.30
無処理			77.2	23.3	48.0	88.3	40.3	12.1	9.1	18.6	0.39

² カラーチャート指数

³ 平成8~10年に毎年6月に全新しょうの10%を、主として、長さ70cm以上の未着果房新しょうを基部から間引きせん定した

⁴ 平成8~9年に毎年9月に全新しょうの15%を、主として、長さ200cm以上の未着果房新しょうを基部から間引きせん定した

⁵ 上芽及び先端芽を主体に平成8~10年4月に毎年、4本/m²を残して除芽

[その他]

研究課題名: ブドウウイルス無毒樹の栽培技術の確立

予算区分: 県単

研究期間: 平成10年度(平成7年~11年)

研究担当者: 森田 昭・林田誠剛

既発表論文等: なし